

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 昔から子どもの遊びの重要性についていわれていましたが、近年、ますます耳にするようになりました。研修で子どもの遊びを学び、改めて遊びは心身の調和の取れた発達の基礎を培う重要な学びである事を認識しました。遊びは興味と関心を導き、自発性、独創性、そして人間関係を築き、多くの能力を高めていくもので、私たち大人が豊かな遊びの環境を整えて、子どもの遊びに注目し、それを見守ることが大切である事を学びました。
- ◆ 子どもの遊びの理解と支援では、子どもの生活の中での遊び、子どもの発達段階に合った主体的な遊びをすること、子どもの遊びへの放課後児童支援員の対応のあり方、大切さが分かりました。子どもは、遊びを通して社会性を身につけるので、安心して遊べる環境づくりや手助けをしていきたいです。子どもを1人の人間としてみるということ大切にしていきたいと思いました。
- ◆ 今回の研修を受講して、子どもの生活における遊びの大切さを理解することができました。中でも「遊びの中にたくさんの学びのきっかけがある」というキーワードが印象的でした。子どもが自発的に遊びを創り出せるように、上手に応援していきたいと実感しました。子どもを1人の人間として尊敬の心を持ちながら見守り、子どもと一緒に笑い、子どもとともに何かに取り組める支援員になれるよう努めたいです。
- ◆ 子どもたちにとって遊びは生活の中心そのものであり、遊びを通して不思議やチャレンジ、創意工夫などたくさんを経験し学んでいることが分かりました。子どもたちに共感し、見取る、見守る、見通す、見定めるの4つのまなざしを心にとめて接していきたいです。「子どもを尊敬の心をもって1人の人間としてみる」という言葉も印象に残ったので、常に意識するようになりたいです。
- ◆ 自分が自分で自分から行う主体的な遊びにより、頑張る力や集中力、工夫する力、諦められる力などの非認知能力が培われていくことを学んだ。子どもが挑戦していることにすぐ手を差し伸べるのではなく、その様子を見守り、子どもの思っていることや良くしようとしていることなどに共感する支援を大切にしていきたい。「子どもを1人の人間としてみる」ことを大事に、ともに笑い取り組み、子どものそばに立って関わっていきたい。